



とべ 陶街道 をゆく

四国
愛媛



豊かな自然と
焼き物文化、
手仕事のまちを遊ぶ



陶街道五十三次41番 砥石山公園

砥部の砥は、砥石の砥
ルーツは砥石山
今は切り立った柱状の岩肌が名残
となった砥石山は、かつては知られた
『伊予砥』の産地。砥部焼磁器創業の
原料となった砥石屑はここで掘られ
たもの。砥石山の砥石は700年代の
正倉院文書にも記載を残す。このあた
り一帯は砥山といわれ、「外山」の地名
となり、時代を経て「砥部」になったと
いわれている。



四国
えひめ 砥部

清流とほたる 砥部焼とみかんの町

発行 砥部町 商工観光課

〒791-2195
愛媛県伊予郡砥部町宮内1392番地
Tel:089-962-7288
Fax:089-962-4277
<http://www.town.tobe.ehime.jp/>

発行日 令和5年11月

のどかで清らかな陶郷の風を感じて

『陶街道五十三次』のあるまち

風が吹き抜ける陶祖ヶ丘

もくじ

砥部 南部	2
大南・五本松	6
窯元めぐりをしよう	7
砥部焼を創ってみよう	8
砥部 北部	10
動物園周辺	12
広田地区砥部の山里	14
季節のイベントカレンダー	16
陶街道五十三次	17
交通インフォメーション	18
メイドイン砥部・イートイン砥部	19



砥部町

- ・人口:20,402人(R5.10.1現在)
- ・面積:101.59km²
- ・地形:東西9km、南北21kmの細長い形。
愛媛県の中でもほぼ中央に位置し、松山市、伊予市、
松前町、内子町、久万高原町と隣接する。
- ・イメージキャラクター:とべっち

素朴でアートな焼き物の里 陶街道は文化と人をつなぐ道

砥部町は、県都・松山市に隣接しているベッドタウンでありながら、何とものどかな焼き物の里という二つの顔を持つ。その歴史は江戸時代から続き、手仕事の技術は脈々と受け継がれ、今なお80ほどの窯元が点在している。

この焼き物の里には「陶街道」と呼ぶ道がある。砥部町の魅力をつないだスタングラリーの面白さが相まって、老若男女問わず楽しげに回遊する。訪ねてみれば、二百数十年の砥部焼の歴史、名もなき陶工たちの熱い想い、傑出した偉人たちの技を知るよすがとして、貴重な存在でもあることに気づくだろう。



☎089-962-6600
〒687-0035 大南335
🕒9時～17時
📅月曜（祝日の場合は翌日）、
12/29～1/1
👤大人300円、小中学生100円、
高校・大学生・65歳以上200円
🆓無料

巻頭MAP B-6



手前は古砥部陶器の代表的作品「北川毛鉄絵松竹梅文徳利」（高さ約35cm）

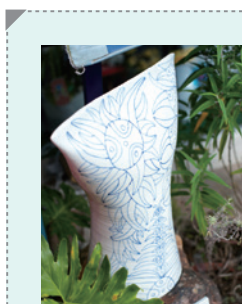


ぬるっとした光沢が砥部焼の歴史を語る大登窯



巻頭MAP B-6

砥部焼最大の老舗窯元
梅山大登窯（梅野精陶所）
明治15年開窯の梅山窯、梅山古陶資料館
には、その歴史が物語る貴重な作品が展示
されている。またトンバリ（煉瓦）で形成さ
れた大登窯は、丘陵斜面に当時のままの姿
を残し、現在稼働中の製作工程と併せて見
学できる。隣接する直売店で購入も可能。
敷地内に創業者の生家が残されており、茅
葺屋根の佇まいは趣深い。



そぞろ歩きが楽しい店先アート。
ユーモアとセンスが光るタ
イトルにも笑顔がこぼれる



まちかどのアート
【大南商店街モユメント】

巻頭MAP B-6



小高い丘から山里を一望
陶板の道から陶祖ヶ丘へ

砥部焼伝統産業会館の南、坂村真民記
念館の横を出発点に、砥部町陶芸創作館
までの約500mを陶板の道と呼び、地
元の陶工が絵付けした陶板約580枚
が足元や壁に埋められている。緩やかな
坂を案内に従って陶祖ヶ丘に出ると、四
季折々に色をかえる人里を一望できる。
心地よい風が語りかけるように頬を撫
で、この郷をもっと知りたいと胸がとき
めいてくる。

巻頭MAP B-6



砥部南部
大南・五本松

驚くような偉人の名にも出会う
里山に広がる呉須ブルーの陶源郷

「砥部焼の魅力をギュッと詰め込んだエリア」



散策にちょうどいいコースで、砥部焼の魅力を味わいながら歩ける

…のマークは陶街道のポイントの番号です



温故知新の風が舞う丘 陶里ヶ丘

砥部焼の振興と後継者育成のため窯業団地として誕生した見晴らしのよい丘に、お洒落なギャラリーや工房が軒を連ねる。モダンで個性的な色や絵柄、新しい形の作品に出会ったり、作り手と直接話ができる窯元巡りはおすすめ。



1.3) 陶里ヶ丘にはギャラリーのように見て回れるお店が多い 2) 団地内には何軒もの窯元の店舗が並ぶ 4) 丘の上に立つ陶里ヶ丘の石碑 5) 伝統的な作品から最近では斬新で感性あふれるモダンな作品まで多彩に並ぶ

☎089-962-7288(商工観光課)
📍砥部町五本松885付近
🆓無料

巻頭MAP C-6

旅の記念に人気の体験 砥部町陶芸創作館

昭和58年に創設された砥部焼の体験施設。素焼きの皿や湯のみなど約80種類の中から器を選んでの絵付け体験や、粘土から形を作るろくろや手びねりが体験できる。指導員が教えてくれるので初心者でも大丈夫(一部要予約)。



☎089-962-6145
📍砥部町五本松82
🕒9～17時
📅木曜(祝日の場合は翌日)、12/29～1/3
🆓無料

巻頭MAP B-6



砥部焼体験についてはP7をご覧ください。

各窯元の商品を販売 砥部焼観光センター 炎の里

見るだけでも楽しい多くの砥部焼作品が並ぶ館内では、絵付け、粘土での造形が楽しめる体験、製土から成型、乾燥、窯と製造工程を回る見学などができる。ショッピングや休憩など、時間や目的に合わせて楽しめる立ち寄りところだ。



☎089-962-2070
📍砥部町千足359
🕒9時～17時
📅12/31
🆓無料

巻頭MAP B-5



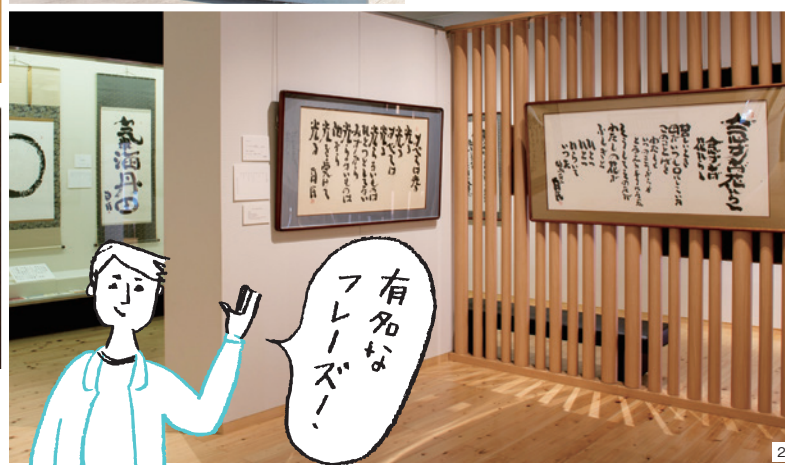
心にしみ入る詩に触れる 坂村真民記念館



「念ずれば花ひらく」で知られ、砥部を愛し終の住処とした詩人・坂村真民の記念館。黒い天井と白い檜板の床の展示室には愛にあふれた作品が並ぶ。書斎を再現したコーナーには、実際に使われていた小さな机と電気スタンドがあり、机に置かれたノートにメッセージを残すこともできる。

☎089-969-3643
📍砥部町大南705
🕒9時～17時(入館は16時30分)
🎫一般400円、高校生・大学生 300円、小・中学生 200円、65歳以上 300円
📅月曜(祝日の場合は翌日)、12/29～1/1、展示替え期間(要確認)
🆓無料

巻頭MAP B-6



1) 記念館外観 2.3) 家族愛にあふれる作品を展示する館内 4) 真民さんの詩の絵はがきなど記念館グッズは人気が高い 5) 在りし日の坂村真民さん 6) 真民さんの愛した朴の花は、季節が来ると可憐な花が咲く

大南・五本松エリアを楽しく!

散策ルンルンマップ





砥部焼は今もほとんどの工程が手作業。その製作を体験して陶工気分を味わいながら、この世にたったひとつのオリジナルをつくってみよう。皿や湯のみに絵付けをするコースや、粘土から手びねりやろくろで自由に形をつくるコースがあり、仕上がった作品を送ってもらうこともできる。いざチャレンジ!

砥部焼を創ってみよう

砥部焼体験は自分だけのオリジナル

【ろくろ】



粘土をろくろにのせて、回転させながら形づくっていく。最初は少し難しいが、専門スタッフが指導してくれるので安心。

所要時間／30分程度
仕上がりまで／1カ月～1カ月半程度

【手びねり】



粘土を手でこねたり伸ばしたり、土の感触を味わいながら、自由にいろいろな形をつくってみよう。

所要時間／1時間～1時間半
仕上がりまで／1カ月～1カ月半程度

【絵付け体験】



皿、湯のみ、茶碗などの中から選び、素焼きの器に筆で絵や文字をかく。子どもから年配の方まで楽しめる。

所要時間／30～60分
仕上がりまで／3週間程度

※以上は、砥部町陶芸創作館における所要時間、仕上がりまでの期間の目安です。

砥部焼ができるまで

- 1 陶石採掘～粉碎精製
- 2 土練り
- 3 成形 (手びねり、ろくろなど)
- 4 削り仕上げ
- 5 乾燥～素焼き
- 6 絵付け
- 7 施釉 (釉薬かけ)
- 8 本焼き
- 完成!

ワンポイント
アドバイス

- 絵付けで使う呉須という染付の顔料は、洋服についたら取れないので注意。
- 作品の大きさは、素焼きで1割、本焼きで1割縮むよ!
- 手びねりやろくろは、素焼きの後で絵付けもできるし、白磁のまま本焼きをすることもできる。



体験できる施設一覧

農村工芸体験館

DATA P11
☎089-969-5087
📍砥部町総津117
🕒9時～17時
🔥火曜(祝日の場合はその翌日)、12/30～1/3
🆓無料

- ❗600円～色数15色
- 👉粘土2000円/kg～(要予約)
- 👉粘土3000円～(指導料込)

※料金、所要時間、仕上がりまでの期間、郵送サービスなどについては、各施設にお問い合わせください。

砥部焼観光センター 炎の里

DATA P4
☎089-962-2070
📍砥部町千足359
🕒9時～17時
📅12/31
🆓無料

- ❗550円～
- 👉1870円～(10名以上は要予約)

砥部町陶芸創作館

DATA P4
☎089-962-6145
📍砥部町五本松82
🕒9時～17時
🔥木曜(祝日の場合は翌日)・12/29～1/3
🆓無料

- ❗300円(箸置き)～
- 👉1人1500円～(要予約)
- 👉1人1500円～(要予約)

砥部焼陶芸館

DATA P9
☎089-962-3900
📍砥部町宮内83
🕒9時～17時
🔥水曜(祝日の場合は翌日)、1/1
🆓無料

- ❗990円～
- 👉1人2750円(要予約)約90分

窯元めぐりをしよう

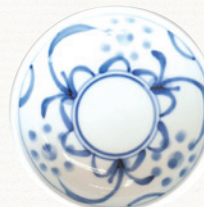
砥部焼の郷で、窯元をめぐる小さな旅

『ぼつてりとした厚みがあり、すべらかな白磁に清々しい藍色(呉須)が映える』そんな砥部焼は、古くから人々の暮らしの中にあり、絶えず受け継がれてきた。やがて衣食住の変化とともに、時代に寄り添い少しずつ変化したり、窯元ごとに個性を魅せる新しい取り組みも生まれた。それぞれの意味や思いを知ると、新しい砥部焼の楽しみ方に出会えるかも!? 砥部焼の歴史を訪ね、お気に入りの作品を見つける窯元めぐりの旅に出発しよう!

これが伝統的文様



【なずな紋】



【太陽紋】



【縁唐草紋】



【丸抜き紋】



【十草紋】



【赤笹紋】



【三葉紋】



【ひとつ唐草紋】



女性や若い作家も増え、新しい目線と発想で砥部焼ファンを裾野を広げている。

窯元めぐりに出かけるなら

どこへ行くか

まずは「窯元めぐり帖」を手に入れよう。バックやポケットにも入る小ぶりの冊子で、町内約80の窯元をガイド。



何で行くか

窯元は大南、五本松、北川毛に集中。車を砥部焼伝統産業会館に停めて歩くか、レンタサイクル(有料・台数に限りあり)を利用するのもよい。

地元人ならではの情報は?

窯元によっては事前連絡が必要などところもある。車でないと行くのが難しい所もあるので、事前に調べておくこと。



山の中腹から広がる焼き物の里はのどかな田園も広がる

温故知新

砥部焼の歴史と発展

◆大洲藩の命で陶磁器の開発

特産品であった伊予砥(砥石)の屑を利用し、また燃料となる松の木にも恵まれた。麓の傾斜地は登り窯に適し、砥部焼は大洲藩の庇護のもと発展を遂げた。

◆輸出で栄えた黄金期

明治5年ころからは現在の伊予郡松前町の唐津船で、販路を全国へと広げていった。さらに海外に向け、梅山窯の登り窯で現ミヤンマー向けに型絵染付の「伊予ボール」と呼ばれた茶碗を大量に輸出し最盛期を迎えた。



◆柳宗悦や浜田庄司らの民芸運動による再評価で砥部焼ブーム

戦後、伝統工芸視察のため思想家柳宗悦がイギリスの陶芸家バーナード・リーチと砥部を訪れる。そこで機械化による量産を戒め、磁器の産地でありながら実用食器が少ないことを指摘。現在の礎を築いた。さらに浜田庄司、富本憲吉らも、砥部焼発展の歴史に名を刻んでいる。



砥部焼に光をあてた柳宗悦